

基本情報

施設名	アイン高島台保育園
所在地	横浜市神奈川区高島台 27-1
電話番号	045-324-4158
評価年度	平成 30 年度
評価機関	株式会社 R-CORPORATION

評価方法

自己評価	
(実施期間) 平成 30 年 8 月 21 日～ 平成 30 年 9 月 14 日	各自、自己評価を正規職員・非正規職員で記入しました。その後、職員全員で各項目の共通理解、見直し、周知を行い、自己評価としてまとめました。
評価調査員による評価	
(実施期間) 平成 30 年 11 月 1 日 平成 30 年 11 月 2 日	評価調査者 2 名が、2 日間を通し、保育園内の視察、保育内容、園児の観察、書類確認および園長、職員との面接、ヒアリングにより評価を行った。乳児、幼児の食事の観察を行い、保育環境、子どもの遊びの様子および延長保育の観察を実施しました。
利用者家族アンケート	
(実施期間) 平成 30 年 9 月 10 日～ 平成 30 年 10 月 4 日	全園児の保護者に手渡しで配布し、アンケートの記入と投函をお願いしました。
利用者本人調査	
(実施期間) 平成 30 年 11 月 14 日 平成 30 年 11 月 15 日	0 歳～5 歳児対象に 1 日の生活を通して観察を行い、園生活、食事、遊び等を場面観察から考察をまとめました。

横浜市福祉サービス第三者評価結果

《総括》

対象事業所名	アイン高島台保育園
経営主体(法人等)	中央出版株式会社
対象サービス	保育所
事業所住所等	横浜市神奈川区高島台 27-1
設立年月日	平成 26 年 4 月 1 日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION
評価項目	横浜市版

《総合評価》

【アイン高島台保育園の立地・概要】

●アイン高島台保育園は、駅前開発が進む横浜駅西口を出て、高島屋、横浜ベイシェラトンホテル&タワーズを左手に北へ7～8分の鶴屋町3丁目交差点を渡り、前方右斜め上に上がった旧東海道沿いの見晴らしの良い高台に位置しています。園舎は大型マンションの1階、2階部分にあり、勾配の地形を生かして2階にエントランスがあります。「高島台」の地名の由来として、日本で一番初めの蒸気機関車を新橋・横浜間に開通する際、今の横浜駅の所まで海であったため桜木町から横浜までの築堤を必要とし、その築堤を引き受け完成させたのが高島嘉右衛門であり、記念してこの辺りを「高島台」と呼ばれた由来があります。古くは東海道神奈川宿等、横浜界限は日本の歴史を創ったゆかりが多く介在する地です。アイン高島台保育園の保育室は、2階が幼児保育室（3歳～5歳児）、階段を降りて1階が乳児保育室（0歳～2歳児）になっており、1階の園庭は通り道から少し高くなっており、子どもたちの遊び場に適し、2階のテラスデッキに菜園を設け、様々な野菜作りに取り組み、食育に力を入れています。

●アイン高島台保育園は、平成26年4月に開設され5年目を迎えた保育園です。定員60名の中規模保育園で、在籍児童数（0歳～5歳児）も60名であり、産休明け保育、長時間保育、障害児保育を実施しています。アイン保育園では「1. 自由保育」、「2. モンテッソーリ教育」、「3. 共育」の3つのコンセプトを掲げ、アイン高島台保育園の園目標として「自分で考え、行動できる子ども」、「好奇心・意欲のある子ども」、「誰からも愛され、思いやりの心をもった子ども」とし、愛情を持った「共育」を実施し、生きる力と夢を持った子どもを育むことを念頭に置いて保育に当たっています。

【アイン高島台保育園の方針】

●アイン高島台保育園は、アイン保育園の事業理念「みらいを生き抜く力を育てる」をモットーにして保育を展開しています。さらに、子どもを尊重した保育理念とした「今の子どもたちが大人になる頃、多種多様な社会問題、環境変化を乗り越えないといけない時代です。私たちは子どもたちに、挑戦する心、諦めない心、感謝の心を持ち、元気な大人になるための環境を提供します。アイン保育園は、愛情を持った“共

育”を実施し、生きる力と夢を持った子どもを育てます。」の実現に向けて保育方針、園目標を掲げ、保育の質の向上をベースに、その中で遊ぶ楽しさをいっぱい感じてもらう保育を展開しています。アイン保育園のコンセプトは、「自由保育」、「モンテッソーリ教育」、「共育」であり、「自由保育」では子どもたちの主体性を尊重して個々の育ちを大切にする保育を、「モンテッソーリ」ではすべての子どもが持つ自分を伸ばす力（自己教育力）を発揮させ、大人は子どもに何かを教えるのではなく個々の子どものその時期の興味をよく見て適切な環境を整え、援助する保育を、「共育」では、子ども、保護者、地域の方々、保育士がお互いに助け合い、勉強しながら共に育っていける保育を心がけ、推進しています。中央出版株式会社の自社でもモンテッソーリメソッドの遊具（プルチノ）を製造販売し、他社のモンテッソーリ遊具も活用して保育を展開しています。

《特に優れている点》

1. 【自由保育】

●アイン保育園では、子どもたちの主体性を尊重して個々の育ちを大切にする「自由保育」に力を入れています。保育士による提供された一斉カリキュラムではなく、子どもたちが自分で考えて個々の興味・関心のある遊びを見つけて取り組むことで、自分で決めたりする力や主体性を育てています。また、好きな遊びに集中して遊び込んだ満足感は、落ち着きにつながります。「自由保育」を実施するためには保育士との愛着関係と環境作りを大切に考え、アイン保育園では子どもたちの興味・関心を保育士がじっくり見極め、年齢に合った玩具、教具を揃え、子どもたちが自分のペースで興味・関心のある活動に満足するまで取り組むことができるよう環境を整えています。

2. 【モンテッソーリ教育の推進】

●モンテッソーリ教育には、すべての子どもは自分を伸ばす力（自己教育力）を持っているという考え方を基本に、特徴として「自由に個別活動をする」、「子どもの中の自主性を重んじる」、「異年齢保育で活動する」であり、大人は子どもに何かを教えるのではなく個々の子どものその時期の興味をよく見て適切な環境を整え、保育士は「援助」をすることを役目としています。そのため、モンテッソーリ教育には各発達段階の子どもがやってみたいと思える教具をたくさん揃えています。アイン保育園では、モンテッソーリ教具や、モンテッソーリ教育の考えに基づいた中央出版株式会社のオリジナル教材である『プルチノ』等を揃え、子どもたちが興味・関心のある遊びに取り組むことができるよう支援しています。「異年齢保育で活動する」では、異年齢で互いに学び合える活動を取り入れています。モンテッソーリメソッドの教育を核とした整備された環境の中で子どもたちは達成感、満足感、自信、集中力を高め、生きる素地を身に付けています。

3. 【「共育」の推進】

●コンセプトの1つである「共育」は、“共に育つ”という意味合いとして、子ども・保護者・地域の方々とアイン保育園を含む法人本部関係者で互いに助け合い、学び合い「共に育っていく」の想いが込められています。また、子どもたちは年齢別クラスで同年代の子ども同士や、異年齢保育の中で共に育ち、保育士も保護者も子どもをサポートする中で共に育って行きます。また、企業理念の1つに「子ども、保護者、地域の方々、保育士がお互いに助け合い、勉強しながら共に育っていくことを目指して」を定め、実践しています。大人が子どもに何かを教えるのではなく、大人（保育士）も日々子どもたちから様々なことを学び、子どもたちと共に成長する…アイン高島台保育園はそんな保育園を目指して日々努めています。「共育」の保育は、年間指導計画の各分野に組み込まれ、保育士のサポートの心遣いの中で実践されています。「共育」の考え方は保護者会で説明して理解を促し、入園のしおり、園だよりにも毎月記載してアイン高島台保育園の方向性を示しています。朝の7:00~8:30と午後18:00以降は合同保育とし、第2の家庭、たくさんの兄弟として年上の子ども、年下の子ども、真ん中の子どもが互いに支え合う「共育」を実践しています。

《さらなる期待がされる点》

1. 【モンテッソーリメソッドの理解と展開による保育の質の向上】

●企業が統一ある保育の展開、系列全園で同じサービスを展開するためには核なるポリシーが必要であり、中央出版株式会社では「モンテッソーリメソッド」を核とし、アイン保育園全園でモンテッソーリメソッドを核とした保育の展開を図っています。根幹とする方針を展開し、メソッドを成功させるためには、全職員がそのメソッドを十分使いこなしてこそ推進、確立が図れます。モンテッソーリメソッドに対する職員の理解、園ごとの展開にまだバラつきがあるように思われます。先ず、モンテッソーリメソッドの理解をより深め、メソッドに沿った保育の在り方・職員の意識等、職員一人ひとりが取り込み、園全体でベクトルを合わせることで特化した保育が展開できると思います。さらに全職員の理解を進め、第1段階で展開ができると第2段階での大きな展開の可能性が膨らんでくると思います。ぜひ、期待いたしております。


横浜市福祉サービス第三者評価結果

第三者評価受審施設	アイン高島台保育園
評価年度	平成 30 年度
評価機関	株式会社 R-CORPORATION

<評価領域>

I	利用者本人（子ども本人）の尊重	II	サービスの実施内容	III	地域支援機能
IV	開かれた運営	V	人材育成・援助技術の向上	VI	経営管理

評価領域 I 利用者本人（子ども本人）の尊重


評価分類 1 - 1	保育方針の共通理解と保育計画等の作成
評価	

評価の理由（コメント）

●アイン保育園の事業理念である「みらいを生き抜く力を育てる」をモットーとし、子どもを尊重した理念、方針、園目標を定め、入園のしおりに記載し、保育理念、保育目標は保護者、職員の目の付くところに掲示して理解を促しています。職員に対しては、理念や保育方針を書面にして配付し、ミーティングで読み合わせを行い、詳細を再確認して理解を深めています。理念、方針、園目標はパンフレット、ホームページ、入園のしおり、園だより等に掲載し、保護者に周知しています。アイン保育園のコンセプトは「自由保育」、「モンテッソーリ教育」、「共育」であり、「自由保育」では、子どもの主体性を尊重して個々の育ちを大切にする保育を実践し、「共育」では、子ども・保護者・地域・保育士が互いに助け合い、学びながら共に育っていきける保育を心がけ、「モンテッソーリ教育」では、全ての子どもが持つ自分を伸ばす力（自己教育力）を発揮させるよう、適切な環境を整え、保育士は「援助をする」保育に当たっています。

●全体的な計画は、前年度の保育課程作成プロセスをベースに園長を中心として進め、新保育所保育指針を加えて次年度の展開を踏まえて作成しています。保護者に対しては、入園説明会、懇談会において園長から全体的な計画に基づいた保育方針、子どもたちに育ってほしい姿を説明し、理解を促しています。

●全体的な計画に沿い、子どもの成長・発達を考慮しながら年齢ごとの年間指導計画、クラス別年間指導計画を作成しています。職員は、子ども一人ひとりの気持ちや要望を汲み取り、意見を大切にし、振り返り時に子どもの意見等を取り入れ、次期の計画に反映させるよう心がけています。園では毎日、午前中の保育の振り返りを各クラス担任間で行い、昼礼（各クラスから職員1名参加）で振り返りの報告および事例を伝え、他職員や園長、主任の意見を心得て話し合っています。

評価分類 1 - 2	子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施
評価	

評価の理由（コメント）

●入園説明会（3月）では、子どもと一緒に保護者に来園をお願いし、担任保育士が個別に面談を行い、子どもの姿を見ながら保護者から生育歴や家庭の状況を把握し、得た情報は職員間で共有し、入園後の保育に生かしています。支援が必要な子どもには必要に応じて区役所や横浜市東部地域療育センターと連携し、助言を受けながら保育にあたり、職場間で共有して保育に生かしています。

●新入園児受け入れに際して、短縮保育（ならし保育）を2週間程度目安として実施していますが、保護者の勤労状況と子どもの様子に合わせて柔軟に対応しています。新入園乳児については、個別の育児担当を決めて食事・排泄・睡眠にかかわり、子ども一人ひとりの生活リズムを大切に、園生活に慣れるよう配慮しています。保護者へは、乳児クラスは連絡ノートで密に連携を図り、送迎時にも口頭で子どもの1日の様子を伝えています。幼児は、希望者が各自ノートを用意し、必要に応じて活用しています。在園児への配慮では、できる限り担任1名は持ち上がりとし、保育士の配置に配慮し、子どもの表情や様子等に留意し落ち着いた雰囲気の中で過ごせるよう不安軽減に配慮しています。

●個別計画については、子どもの成長や発達状況に応じて計画を作成しています。指導計画は、月案レベルで毎月の反省、見直しを実施して次月に反映し、年度末に年間計画の反省と次年度の計画に生かしています。指導計画の評価、改訂にあたっては、幼児会議（月2回）、乳児会議（月1回）、乳児クラス打ち合わせ（月1回）を実施して話し合い、見直しを図っています。計画の変更については、乳児クラスは日課表で実施し、幼児クラスは週案単位で行い、職員間で確認しています。保護者の意見や要望等については、意見箱を設置し、行事後にアンケートを実施して意見等を抽出し、計画に反映するようになっています。

●乳児保育（0歳児）では、子どもとの愛着関係を考慮して育児担当制保育を採用し、一人ひとりに寄り添った保育を大切にしています。特に、0歳児は養護の面を大切に、保育士の応答的なかわりと家庭的な雰囲気を心がけています。子ども一人ひとりの表情や喃語に適切に対応し、愛情豊かに受容し、生理的・心理的欲求を満ち、発育に応じて「はう、立つ、歩く」等の変化に個別に対応するようになっています。おむつ交換は、やさしく声をかけながら1対1で対応するようになっています。また、アイン高島台保育園では、絵本に入る前段階として「わらべ歌」を大切に考え、子どもに唄って聞かせています。モンテッソーリの展開については、乳児に特化したアイン保育園の統一した方法で個々にかかわりながら進めて

います。アイン高島台保育園ではモンテッソーリ教育を日常生活に密着して展開を図っています。

● 1歳～2歳児の期間は非認知能力が育つ大切な時期として理解し、アイン高島台保育園では今年度、新保育所保育指針の教育的要素を踏まえ、保育理念（事業運営方針）の「みらいを生き抜く力を育てる」と合致するもとし、非認知能力を大事にして目に見えない力の向上に向けて取り組んでいきます。例えば、探索活動を十分行えるよう活動しやすい環境を整え、子どもの発達、遊びについて常に観察し、子どもの姿に合わせた環境・玩具の準備を行っています。また、遊びの広がりや遊びからつながる成長・発達について会議等で話し合い、状況や子どもの様子をミーティングや会議で職員に周知し、共有を図っています。

● 3歳以上児の保育については、3歳児では「集団の中で、安定した、遊びを中心とした活動」を、4歳児は「集団の中で自分の力を発揮し、友達と共に楽しめるよう遊びや活動」を、5歳児では「集団の中で一人ひとりの個性が生かされ、友達と協力して1つのことをやり遂げるような遊びや活動」をねらいとし、集団の中で一人ひとりが遊び込める環境、興味が持てる玩具を検討し、準備するよう努めています。また、集団の中で一人ひとりがゆったりと安心して過ごせる環境作りにも配慮しています。活動は年齢に応じて分けし、お泊り保育、お楽しみ会等について子どもたちと話し合い、戸外・室内活動もみんなで楽しむよう一緒に考えて進めています。

評価分類 1 - 3

快適な施設環境の確保

評価




評価の理由（コメント）

● 施設環境については、毎朝、遅番の職員、パート職員とで保育室外の清掃を行い、夕方は保育士が保育室内の掃除を行っています。各保育室は、南向きで陽光が入り明るく、カーテンで遮光を調整し、24時間自動換気装置を備え、快適な環境を整えています。また、室内の温・湿度管理（パネル）を行い、日々通風、自然換気に配慮しています。保育の音、声については、音楽の音量に配慮し、保育士の言葉は小さな声で子どもに手渡すことを大切にし、大人からの声が心地良いものとなるよう保育に当たり、子どもが落ち着いて遊べる環境を心がけています。


● 沐浴設備、温水シャワーを設置し、汗・汚れの処理等を行い、体の清潔を保っています。使用後は、マニュアルに沿って掃除を行い、常に直ぐに使用できるよう留意しています。定期的に清掃点検と衛生管理を行っています。

● 園では、静と動の活動ができるよう配慮し、一人ひとりが落ち着いてゆったり過ごせる空間作りを心がけています。低年齢児には衝立て等で工夫して少人数で遊べるスペースを設けて小集団保育を行っています。寝食については、0歳～2歳児は機能別の空間を定め、3歳児以上もゆるやかに寝食を区別しています。異年齢の交流では、朝夕の合同保育で行い、幼児は8:00頃に2階に上がりその後、3歳～5歳児はその日の活動に合わせ合同で過ごしています。日頃から4歳、5歳は自由に行き来して交流を図っています。

評価分類 1-4	一人ひとりの子どもに個別に対応する努力
評価	

評価の理由（コメント）


- 3歳未満児については、個別指導計画を作成しています。特別な課題がある子どもについても、個別指導計画を作成します。乳・幼児会議では、気になる子どもや家庭等の報告をすると共に、その中で必要な援助やかかわりについて意見を出し合い、指導計画に反映させています。必要に応じて横浜市東部地域療育センターを連携し、相談できる態勢を整え、助言を保育に生かしています。子どもの個別目標・計画は定期的および、月間・週間レベルで柔軟に変更し、見直しを図っています。個別指導計画の作成・見直しについては、保護者、関係機関から情報を得、重要部分（例えば離乳食、トイレトレーニングなど）については保護者に説明し、同意を得ています。
- 子ども一人ひとりの個別状況の記録は、経過記録に経過を記載し、ファイルして職員間で共有しています。入園後の個別の成長発達記録は健康台帳に記入し、保管しています。引き継ぎ、申し送りについては、伝達・引き継ぎノートを各クラスに備え、子どもの伝達事項を記入し、交代を行う保育士に伝達漏れのないよう引き継いでいます。進級時等には、個別の成長発達記録を基に申し送り・伝達を行っています。転出、転入、就学の場合は保育所児童保育要録の送付や、就学先と連携をして対応しています。

評価分類 1-5	保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み
評価	

評価の理由（コメント）

- 特別に配慮が必要な子どもの保育については、情報を収集し、会議等で配慮事項やかかわり方について確認し、配慮児に合わせた対応を心がけ、全職員が同じ対応ができるよう共通理解を図っています。配慮に必要な研修（障害保育、アレルギー児対応、病気の対応等）を実施し、全職員で共通認識を図り、研鑽しています。また、子どもへのかかわり方についてもケース会議で話し合い、共有しています。巡回相談記録、個別指導計画、個人面談での記録等については決められた場所に保管し、情報の管理を徹底し、閲覧もできるようにしています。
- 障害児保育については、ケース会議、研修を実施して全職員で対応ができるよう体制を整え、共通認識を図っています。横浜市東部地域療育センター、医療機関、専門機関と連携し、巡回指導を受け、相談機能も活用して保育に生かしています。障害児保育のための環境整備では、玄関の段差をなくし、オストメイト対応のトイレを設置しています。職員は、神奈川区主催の障害児保育研修に参加して知識を深め、保育の環境改善に取り組んでいます。

- 虐待の定義については、虐待に関するマニュアルを備え、法人本部主催の研修でも虐待の定義を確認しています。虐待の予防、早期発見のために日頃から観察や保育を通して、子ども・保護者の変化、気づきを大切に、職員間で情報を共有し、気になる場合は直ぐに園長、主任に報告する体制を整えています。また、子ども、保護者とコミュニケーションを図り、必要に応じて面談を行い、保護者の心情を汲み取るよう心がけ、早期発見に努めています。虐待が明確になった場合や、心配や見守りが必要な場合には神奈川県役所、福祉保健センターの保健師に相談の上、児童相談所に通告・相談し、連携して取り組みます。
- アレルギー疾患のある子どもについては、かかりつけ医の指示を受け、適切に対応しています。職員会議でアレルギーについての研修を行い、エピペンの打ち方の実践研修も実施して緊急時に備えています。食物アレルギーのある子どもについては、かかりつけ医からの「アレルギー疾患生活管理指導表」を受け、保護者と密に連携を図り、職員間で情報を共有して除去食を提供しています。給食では、専用食器、トレイを用い、ラップにアレルギー源（小麦粉、乳製品等の名称）・名前を記入し、個別配膳と栄養士、担任でダブルチェックを徹底し、座席位置に配慮を行い、誤配膳、誤食がないよう徹底しています。
- 文化の異なる外国籍の子どもに対して、文化や生活習慣、考え方の違いを尊重しています。園では、クッキングでその国の料理を調理し、子どもたちが実際に体験できる機会も設けています。モンテッソーリ教育での教具の1つに「文化の教育」があり、地球儀、世界地図パズル、国旗のぬり絵、積み木等を通して在園する子どもの国の場所を知ったり、図鑑から諸外国の様子や文化の違いに興味を持てるよう工夫しています。意思疎通についての対処方法については法人系列全園で心得、対応できるようにしています。

評価分類 1 - 6	苦情解決体制
評価	

評価の理由（コメント）

- 保護者からの苦情などに関しては、入園のしおりに苦情解決責任者、苦情受付担当者を明示し、面談、文書等の方法により相談・意見を受け付けていることを知らせています。第三者員の連絡先、氏名も入園のしおりに明記し、入園説明会で苦情解決について説明を行い、園内に掲示して苦情に対する対応姿勢と手続方法を示しています。要望や意見等を聞く機会としては、送迎時の保護者との会話、連絡ノート、意見箱、懇談会、個人面談、行事後のアンケート等を実施しています。また、懇談会では法人保育事業本部の担当職員が出席し、利用者の意見や要望を直接聞いています。意見を表明するのが困難な子どもや保護者に対しては、日頃から保護者との信頼関係に努め、相談、要望を述べやすい環境作りに努めています。園長、主任は積極的に声をかけるようにしています。
- 苦情・要望があった場合は、マニュアルに基づいて対応し、記録を行い、園長、主任が中心となって改善策を検討し、職員会議等で改善策・対応方法を職員に周知しています。保護者に対しては、迅速・丁寧に対応し、改善策を説明しています。必要に応じて第三者委員や神奈川区のこども家庭支援課を交えて対

応できる体制を整備し、連携を図っています。過去の苦情・トラブル、要望のデータは蓄積・整理し、サービス向上に生かしています。

評価領域Ⅱ 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類Ⅱ－１

保育内容 [遊び]

評価




評価の理由（コメント）

- アイン高島台保育園では自由保育を実践し、子どもたちが主体的に遊びたい遊びを選択し、自由に取り組めるよう年齢に応じて設定や、玩具、教材を工夫しています。玩具や教材等は子どもの目の届くところに設置し、自由に選んで自分で取り出して遊べるようにしています。乳児は、棚に各玩具の写真を貼り、片付けができるように工夫しています。モンテッソーリ教具、一般遊具にこだわらず、子どもが興味を持っているものを見極め、適切に揃え、年齢や発達に相応しい環境を構成しています。
- 自由遊びの時間については、基本的には一人ひとりの主体性を尊重した遊びの環境を大切に援助し、子どもの興味・関心が広がるような活動の働きかけを通して一斉活動につなげています。また、子どもが参加したくなるような楽しい企画（リトミック、ドッジボール、リレー、近隣園との交流、法人系列園（アイン松本町保育園）との合同ハロウィン等）を設け、みんなで楽しく取り組めるようにしています。一斉活動については、みんなでルールを守りながら遊ぶ楽しさを伝えています。保育士は、一緒に遊びを見守る中で子どもの興味や関心を知り、子どもの発想等を大切に、年齢に応じて友達とのかかわりや約束を守る等、社会性を身につけられるよう支援しています。
- 栽培では、2階のテラスデッキでチューリップの花や、夏野菜、トマト、稲を育て生長を観察し、収穫体験をして食育（クッキング活動）につなげています。飼育ではメダカ、金魚、カブト虫（主任が飼育）を育て、エサやりを通して小さな生命の尊さを学んでいます。地域との交流では、お散歩で行き交う地域の方々に挨拶し、反町へのお散歩では、商店街の花屋さんや八百屋の店で買い物や挨拶をして親しく交流しています。
- 子どもが自由に表現できるように、自由画帳、クレヨン、ぬり絵ファイル等を用意し、子どもの興味に応じて自由に表現できるようにしています。積み木コーナーでは、次の活動後にも遊びの続きができるようそのままにしておく等、配慮しています。楽器（ハンドベル、ボンゴ、木琴等）は子どもたちが手に取れるところに置き、自由に表現を楽しんでいます。
- 子ども同士のトラブルについては、アンテナを張り、見守りながら自分たちで解決できるよう援助を行い、必要に応じて仲介しながら支援しています。乳児の場合は、発語できる子どもについては極力見守り、子どものやりとりを大切にしつつ、発達に応じて声をかけるタイミングを見極めて援助しています。幼児では、各クラスは個別ですが、自由に保育室を行き来し、好きな遊びを異年齢で楽しんだり、異年齢で散

歩に出かける機会を設けています。保育士は常に公平に子どもに接し、温かい態度・言葉遣いで言葉かけを行い、物を渡す際も正対して手渡しで行うよう心がけています。

●健康増進の工夫では、天気の良い日は散歩や屋外活動を取り入れ、子どもたちの活動・運動機能に応じて散歩先を考慮し、公園の傾斜登りを活用して手足の力をつけたり、広い公園でリレーをしたり、のびのびと体を動かして体力増強に努め、戸外で活動の幅が持てるよう工夫しています。紫外線対策やアレルギー対策では、皮膚の弱い子どもには薄手の長袖や長ズボンを着用する等対策を講じ、蚊の対策・予防も行っていきます。子どもの健康については連絡ノートでの情報や既往歴を把握し、個別に配慮しています。

評価分類Ⅱ－1	保育内容 [生活]
評価	

評価の理由（コメント）

●食事を豊かに楽しむ工夫として、アイン高島台保育園では0歳～2歳児は育児担当制保育を行い、子ども達の生活リズムや登園時間に合わせて一人ひとり時間差で保育士と0歳児は1対1、1歳児では1対2で援助を行い、2歳児は1対4で食事を取り、2歳後半から集団で食事をする体制とし、子どもが落ち着いて無理なく食事ができるようにしています。乳児の授乳、離乳食では、子どものリズムに沿って対応し、子どものペースを尊重して提供しています。食事の量については、3歳児以下は基本量を厨房で盛り付け、4歳、5歳児はバイキング形式を取り入れ、5歳児は食べられる量を自分で盛り付け、4歳児は保育士が盛り付けるようにして徐々に自分で盛り付けられるように進めています。偏食対応については、事前に個々の苦手な食材を把握し、無理強いをせず食べる意欲を引き出せるよう一人ひとりに合った声かけを心がけて対応しています。

●食育では、幼児クラスは稲の栽培を行い、稲から食すまでの過程を知り、5歳児クラスでは今年の夏から炊飯器を導入し、お米を研いで炊飯器で炊き、給食で炊き立てのご飯を食しています。炊ける香りから食欲をそそり、食べる意欲につなげています。また、豆腐作りも行っています。乳児は実際に野菜に触れて触感を覚え、スイカを目の前で切って見せ、食感を楽しみ、キノコほぐしをして調理の手伝いをする等、食育に取り組んでいます。月1回、行事食を提供し、季節（行事）に合った旬の食材を用いたメニューを企画し、子どもたちの楽しみとなっています。

●献立について、給食は委託（ジェイキッチン）し、献立は月2回サイクルで提供しており、委託事業所の栄養士は子どもたちの食事の様子を巡回し、月1回の給食会議で職員と喫食状態を検討し、委託担当者や園長を中心とした献立会議に意見を出し、調理法等の工夫・改善に生かし、2回目の提供の際は改善を生かすようにしています。また、日々の食事の中で気が付いたことはその都度、栄養士に伝え、調理の段階の改善に生かしています。

食器は、陶製のユニバーサルプレートを採用し、発達・成長に合わせた食具を数種揃え、正しい姿勢で食事をするよう足台や背当てを工夫し、食具の持ち方等、食事の正しい習慣作りに取り組んでいます。献立

表は、前月に翌月の献立表を保護者へ配付し、毎月「給食だより」を発行し、当日の給食サンプルは提示して食材の産地を示しています。給食だよりは、食に関する情報やレシピを掲載し、懇談会では給食の試食会を設け、希望に応じてレシピを配付する等、家庭での食育につなげています。

●午睡については、安心して心地良く午睡ができるようカーテンで調整し、室温、湿度に配慮しながら午睡中の環境作りをしています。保育士は、子守歌を唄ったり、絵本の読み聞かせをする等、心地良い眠りに誘うようにしています。眠れない子ども、眠くない子どもには、休息することを重点にし、横になって静かに過ごすよう促しています。乳児は、布団を敷く場所をいつも同じにし、日課に「布団並び順」を示して確認し、いつも同じ場所で子どもが安心して睡眠がとれるよう配慮しています。SIDSの予防では、0歳児は5分間隔、1歳児は10分おきに、2歳児は30分ごとに呼吸チェックを行い、チェック表に記録し、視診、触診をして確認しています。午睡用布団は、呼吸できる布団を園で購入し、カバーは自宅から持参してもらっています。

●トイレトレーニングでは、一人ひとりの排泄リズム、個人差、自主性を尊重し、保護者と密に連携をしながら進めています。園では、年齢・月例に合わせてトイレトレーニングを行うのではなく、個々の膀胱の保持力、溜められる機能の発達や排泄リズムを見ながら進めるようにしています。開始時期には保護者に園での排泄間隔を伝え、家庭での協力を得られるようにしています。

●長時間にわたる保育では、子どもの状態に応じてゆったりと寛いで過ごせるように玩具やコーナーを工夫し、環境を整えています。延長保育での補食・夕食に関しては希望に応じて対応し、捕食は家庭の夕食に妨げにならないよう配慮して提供しています。子どもの状況は各クラスの伝言ノートにて職員間で引き継ぎ、保護者に伝達漏れがないように伝えています。


評価分類Ⅱ－2	安全管理 [健康管理]
評価	

評価の理由（コメント）

●健康管理は、健康管理マニュアルを完備し、子ども一人ひとりの健康状態の把握に努め、目視、連絡帳、朝の検温を行い、健康に留意しています。園での子どもの健康状態は保護者に伝え、検温の状況に応じて保護者に連絡しています。定期的に嘱託医による健康診断、歯科健診、身体測定を行い、健診の結果は健康台帳に記録して保存し、保護者へは紙面でその日の内に配付しています。歯磨き敢行では、歯科検診時に歯磨き指導を受け、歯科医または歯科衛生士により検査薬（赤染め）を使って磨き残しを知り、自分の健康に感心が持てるようにしています。


●横浜市基準に則った感染症に関するマニュアルを備え、入園のしおりに「病気とけが」について明記し、与薬対応や、登園許可証明書または保護者記入の登園届の要否について説明しています。感染症が発生した場合は、園内での感染症蔓延に注意し、注意喚起の掲示を行い、迅速に職員間で必要な情報の共有を図っています。保育中に発症した場合は、速やかに保護者に連絡を行い、可能な限り別室で個別に対応して

います。また、病気の種類、人数を玄関に告知して情報提供を行っています。横浜市からの健康や病気に関するお知らせを毎月掲示し、情報を職員、保護者で共有しています。

評価分類Ⅱ－２	健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]
評価	

評価の理由（コメント）

●衛生管理に関するマニュアル（法人本部で作成）を備え、法人本部で定期的に見直しています。マニュアルは全職員で共通認識を図り、マニュアルに沿って清掃チェック表を作成しています。清掃は、保育室、トイレ、共用部の清掃手順を定め、清掃チェック表を基に毎日掃除を行い、遊具の消毒はアルコールを使用し、木製品は水拭きを行い、適切に衛生管理を行っています。ノロウイルス対策では嘔吐処理セットを各クラスに備え、職員は習得しています。また、汚物処理時には使い捨て手袋を使用し、外部からの感染症を防ぐために消毒液を設置する等、感染症の予防に努めています。

評価分類Ⅱ－２	健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]
評価	

評価の理由（コメント）

●安全管理では、園内の家具は基本的に備え付けであり、仕切りは低い家具とし、家具に耐震マットを付けて安全対策を講じています。安全管理に関するマニュアルを備え、毎日、安全点検をチェック表で行い、修繕が必要な箇所については園長・主任に報告しています。また、事故が発生しやすい睡眠中、プール活動、水遊び中、食事中等の場面で多いことを理解し、特に、特にプール活動については見守り体制が義務付けられ、監視員を立てて注意しています。毎月、様々な災害を想定した避難訓練を実施し、緊急時に備え、園内の避難経路図や緊急時の職員連絡網、体制を整え、保護者への連絡一斉メールを整備し、事故や災害時に的確に対応できるようにし、入園のしおりにも明記して周知しています。園内に AED 設置を設置し、法人全体でも大研修（全職員必須）で AED の実地研修を行い、緊急時に備えています。

●事故やケガにおける対応について入園のしおりに明記し、説明しています。保護者の連絡先を把握し、救急・医療機関、関係機関の一覧表を備え、緊急時に対応できるようにしています。保護者や救急機関への連絡体制を整え、地域や横浜市子ども家庭支援課との連絡体制もあります。園内で事故やケガが発生した場合は、事故報告書、ヒヤリハットに記録し、ハザードマップを作成しています。毎日の昼礼で小さなケガでも報告し合って改善策を検討し、法人系列全園の事故報告書を基に話し合いを行い、再発防止に努めています。

●外部からの侵入に対して、安全管理に関するマニュアルに沿って定期的（年2回）に不審者を想定した防犯訓練を実施しています。玄関はオートロックであり、保護者は暗証番号で入室してもらうようになっています。また、委託警備会社と契約して不審者侵入に備えています。不審者情報は、神奈川県役所の情報をメール、FAXで入手し、警察、近隣の小学校、横浜市防災アプリ、法人系列園のネットワークにより情報を得ています。警察の方を召喚し、子どもたちの不審者への対応について話を聞き、職員は確認しています。

評価分類Ⅱ－3	人権の尊重
評価	

評価の理由（コメント）

- 「子どもの人権尊重」については、月1回の保育研修を通して、子どもへの配慮事項等について実例を通して学び、職員間で相互に話し合う場を設けて研鑽しています。職員は、子どもの名前を呼び捨てにしないこと、叱り方・呼び方等に威圧的な言葉遣いや、急かす言葉等を使用しないよう留意し、穏やかにわかりやすい言葉で話すよう心がけ、子どもの気持ちに寄り添い、気持ちを受け止め、意識して保育に当たっています。
- 子どもが他児や保育士の視線を意識せず過ごせる場所として、衝立やゆったり過ごせる場所があり、一人で過ごせる場所の工夫をしています。また、おむつ交換台の周囲は衝立を設置し、プール後はカーテンの中で着替える等、子どものプライバシーを確保しています。
- 個人情報の取り扱いや守秘義務については、「アイン保育園における個人情報保護の方針」を配付し、全職員（ボランティア、実習生含む）に定義・目的について周知し、共通認識を図り、「ボランティア・実習生の受け入れのマニュアル」にも明記し、誓約書を交わしています。個人情報に関する記録は施錠できる場所に保管し、閲覧場所を定めて管理しています。保護者には、入園のしおりに明記し、個人情報の守秘義務について説明を行い、個人情報の取り扱い（肖像権等）の確認を行い、「同意書ならびに誓約書」を提出してもらっています。ICT化に伴い、個人情報に係わる日誌、月案等、子どもの名前を明記するパソコン作業については外部への持ち出しを禁じ、事務室内での作業を徹底しています。
- 性差に関する配慮では、遊びや行事の役割、持ち物の区別、順番、グループ分けや整列も性別で区別することはしていません。子どもや保護者に対して、固定的に捉えた話し方や表現をしないよう心得、子どもへの無意識な言葉かけについては職員間で互いに留意し、共通認識を図っています。日々の活動では、順番は子どもたちの自由意思に委ね、主体的な活動を意識して援助しています。



評価の理由（コメント）

●保育方針・園目標は、入園説明会時、全体会、クラス懇談会で説明を行い、理解を促しています。また、園目標と併せて今後の方針について説明し、園目標は保護者の目の触れる場所に掲示しています。また、入園のしおり、パンフレットに保育理念、保育方針、園目標を掲載し、ホームページには保護者が意見等を書き込めるようにしています。年２回、保育所全体に関するアンケートを実施し、行事後もアンケートを行い、意見や要望から行事のねらい、方針、園目標の理解度を確認し、園運営に生かしています。また、園だよりにより日々の保育の中で大切にしている思いや、職員の取り組みを掲載し、保護者への理解につなげています。

●保護者との連絡、伝達事項は、職員間の申し送りノートにより送迎時に保護者へ伝え、その日の様子を一言でも口頭で伝えるよう心がけ、連絡ノートの他に、ホワイトボードにその日の活動を記載して保護者に伝えています。保護者のメール配信システムでは、災害時の連絡、イベントの変更のお知らせ、緊急連絡等で活用しています。懇談会は保護者が参加しやすいよう土曜日に開催し、個人面談は年２回（６月・１１月）に実施し、期間外でも、保護者の意向に合わせて行うことを伝えています。

●個別相談・面談については、事務室、空いた保育室を活用し、入室者を制限してプライバシーを確保できるよう配慮しています。相談を受けた場合は、職員が適切に対応できるよう園長、主任がサポートし、相談内容は申し送りファイルに記録し、必要に応じて継続的にフォローしています。

●園生活に関する情報は、毎月、園だより、クラスだよりを発行し、ホームページのブログに掲載する等、子どもの様子、活動や保育の様子を知らせています。園では「おいたち」という子どもの成長記録を作成し、０歳児クラスは毎月、１歳～２歳クラスは２か月に１回、３歳以上のクラスでは３か月に１回提供しています。

０歳～２歳児については連絡ノートでその日の様子を伝え、３歳～５歳児はホワイトボードで活動、子どもの様子、情報を伝え、フェイスブックでも画像付きの子ども様子を発信しています。

●保護者の保育参加・参観については、年度初めに年間行事予定表を配付し、園だよりでも予定を掲載して保護者が参加できるよう促しています。「１日保育士体験」事業として、保育参加の受け入れを行い、親子クッキング等を実施しています。保育参加は、いつでも受け入れることを伝えています。

●園では保護者会は設けていませんが、昨年は卒園児の謝恩会をクラスで行い、園長、職員が招待を受けて出席する等、良好なコミュニケーションが図られています。日々の送迎時には担任、担任以外の職員も挨拶、会話をし、保護者とは日頃から信頼関係を築くよう心がけ、円滑な園運営につなげています。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類Ⅲ－1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供

評価



評価の理由（コメント）

● 地域の子育て支援におけるニーズの把握については、神奈川区の園長会議、地域ネットワーク事業、園見学者等からニーズを把握しています。地域の台町公園主催の集まりに参加し、自治会や近隣園の方々から地域のニーズや周辺住民の状況等の情報を収集し、地域の子育て情報も収集するようにしています。神奈川区民祭りが先月反町公園で開催され、授乳・おむつ替えができる「あかちゃんの駅」もある等、今後参加していく予定です。

● 地域の子育て支援については、神奈川区の子育て支援連絡会から情報を収集し、職員間で話し合っています。以前はキャリアアップ・子育て支援担当が在籍していましたが、現在は欠員にて連絡会に参加できていません。神奈川区内の法人系列3園と交流保育を実施し、地域の子育て親子に声かけを行っています。また、神奈川区の子育て支援事業の「あかちゃんの駅」に協力し、おむつ交換の場所の提供を行っています。地域での子育てを支援するため、障害児保育にも力を入れています。

評価分類Ⅲ－2 保育園の専門性を生かした相談機能

評価



評価の理由（コメント）

● 神奈川区の子育て情報サイト、広報よこはま神奈川区版等に掲載して情報提供しています。育児相談事業は神奈川区の広報誌や、神奈川区のホームページに子育て相談の案内、園の紹介を掲載し、育児相談に応じる旨を発信しています。また、「よこはま働くママ応援隊」(inet)、神奈川区のエリアガイド (itot) にも掲載し、園見学者にも園の情報を提供していますが、近隣への情報提供については希薄なため、今後の取り組みに期待いたします。園舎は大型マンション内にあり、マンション全体のクリスマスコンサートや防災訓練に招いてもらい、交流を図る機会を得ています。

● 園長は、各種連絡会に参加し、入手した情報は職員に周知しています。関係機関・団体等の連絡先リストを作成して事務室にファイルし、職員で共有しています。関係機関（神奈川区こども家庭支援課・神奈川区役所福祉保健センターの保健師・近隣小学校・横浜市東部地域療育センター・東部児童相談所・嘱託医・警察・消防署等）との担当は園長とし、連携を図っています。現在、自治会に加入しており地域との連携を深め、神奈川区子育て連絡会への参加や地域子育てプラザにも今後参加し、連携の拡大に期待されます。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ

評価



評価の理由（コメント）

- 地域への園の理解促進のための取り組みとして、園行事（運動会、夏まつり）に地域の方々、卒園児、テナント事業者、園見学者に招待し、園の理解につなげています。運動会の会場は小学校を借用し、年長児は就学に向けて年1回、交流会に参加し、交流を図っています。また、クリスマス時期には散歩などで1年の挨拶を兼ねて近隣へカードを配り、良好な関係作りに努め、地域の様々な人と交流する機会を設けています。ボランティアの受け入れでは、菅田中学校から体験学習を受け入れて交流しています。
- 子どもと地域との交流では、幼保小と連携し、法人系列園での交流、散歩や商店街の買い物等で交流を図っています。地域の文化・レクリエーション施設等の利用では、近隣の公園の利用、消防署の見学・横浜市民防災センター等を活用しています。散歩や買物では、地域のお花屋さんや八百屋、マンションの方等と挨拶を交わし、交流しています。また、青木小学校と交流を図り、台町公園のイベント参加やポスター掲示の協力を行い、近所のお祭りの際は寄付を行い、交流を行っています。

評価分類Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供

評価



評価の理由（コメント）

- 園の保育内容・保育方針等の情報提供は、神奈川区のホームページ、神奈川区の子育て支援情報サービスのホームページやパンフレット、横浜市の「ヨコハマはびねすぽっと」にも情報を掲載し、園のパンフレットは神奈川区役所に設置し、神奈川区「地域子育て支援拠点かなーちえ」でも情報を提供しています。法人・園のホームページやブログ、フェイスブック、入園のしおりに情報を掲載して周知しています。
- 利用希望者からの電話問い合わせ等については随時、丁寧に対応し、見学ができることを案内しています。園見学者には、希望者の都合に合わせて対応し、混雑時期以外は一組ずつ対応するようにしています。園の保育方針や利用条件等についてパンフレットに基づいて説明を行い、案内をしながら保育園での生活や年齢に応じた過ごし方等を説明しています。

評価分類Ⅳ－3

ボランティア・実習の受け入れ

評価



評価の理由（コメント）

●園では、ボランティア受け入れのマニュアルを作成し、受け入れています。マニュアルに沿って事前にオリエンテーションを行い、受け入れの担当は園長とし、基本的な考え方や園の方針の説明を行い、理解を促しています。中学生の体験学習、1日ボランティア、採用に関連したボランティア等を受け入れています。終了日には感想、反省から園長が助言等を行う等、感想や意見は今後の参考にできるようにしています。保護者へは入園説明会や園だよりで周知し、職員へはボランティアの目的、対応について説明しています。

●実習生の受け入れでは、育成担当は園長が行い、実習生受け入れのマニュアルに沿って事前にオリエンテーションを行っています。園の保育方針、保育内容、心構え、子どもへの接し方、保護者の対応と守秘義務、留意事項を説明し、守秘義務に関して誓約書を交わしています。保護者に対しては入園説明会や園だより、掲示にて周知し、理解を促しています。実習に向けてオリエンテーションで話し合い、実習生の目的、希望に応じて適切な実習プログラムを作成し、効果的な実習に努め、実習終了日には全体の反省会を行い、感想、気づきを書面で提出してもらい、意見交換を図り、成果に結び付けています。

評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上

評価分類Ⅴ－1

職員の人材育成

評価



評価の理由（コメント）

●人材の確保については、法人本部で必要な人材の補充を逐次実施しています。園長は、職員個々の職位や必要なスキルを目指して、人材育成計画に沿って職員のスキルアップを図るよう取り組んでいます。人材育成計画や人事考課制度に則り、年2回、面談シートを基に園長との面談を実施し、職員一人ひとりの資質向上につなげています。研修体制については、法人本部開催の大研修（年2回）、小研修（年3回）を開催し、法人管轄のエリアごとの階層別研修に参加し、他、外部講師による研修、モンテッソーリ研修（静岡）、キャリアアップ研修に参加して知識・技術の向上を図っています。各職員の年間目標を設定し、すべきことを計画し、年度末には、達成状況や反省点を確認し、次の課題につなげています。

●常勤職員、非常勤職員の研修体制については、職員の経験年数や役割に応じて研修を促し、スキルアップを図っています。非常勤職員に関しては限られた勤務時間を考慮し、常勤職員が受講した研修報告書の閲覧、内部研修の資料を配付して知識の共有化を図っています。外部研修受講後は研修報告書を作成し、園内研修、職員会議時に伝達研修を行い、職員間で共有を図り、報告書はファイリングして閲覧できるようにしています。業務では、常勤職員と非常勤職員を組み合わせ保育に当たっています。また、非常勤職員のミーティングを通して研修を実施し、コミュニケーションを図りながら園の円滑な業務につなげています。

評価分類V-2	職員の技術の向上
評価	

評価の理由（コメント）

●計画的に職員個々のスキルの段階に応じた技術向上に取り組み、今年度は第三者評価による保育所の自己評価を実施し、質の向上につなげています。外部からの技術指導では、園内の育児勉強会ではモンテッソーリ教育について内外の専門家から学び、また、神奈川区役所の有識者、外部の英語講師、法人本部のスーパーバイザー等から評価やアドバイスを受け、法人主催の研修、育児の外部講師を召喚しての研修、各種研修に参加し、情報や知識を得ています。園長不在時は主任が主体となって保育にあたり、円滑な業務に尽力しています。

●人事考課制度により職員は目標を決め、保育所の理念や保育の方針、全体的な計画、記録を通して自己評価を実施し、園長面談で振り返りを行い、保育を通して子どもたちの目指す活動について話し合い、中長期的な計画の中で実施される子どもの育ちや意欲、取り組む過程などに重点において保育・活動に当たっています。職員一人ひとりの実践の改善については次期計画作成に反映させています。

●年度末に保育士の自己評価の結果から保育所の年間指導計画にかかわる項目を抽出および話し合い、保育所の課題を明らかにし、改善に取り組んでいます。園内に保育士の自己評価を掲示し、保護者に開示しています。

評価分類V-3**職員のモチベーションの維持**

評価

**評価の理由（コメント）**

- 園長は、法人による評価基準の下、職員との面談時に目標、自己評価のフィードバックを行い、成果を認め、次のステップに向けた努力や改善を要する能力について職員と共に考え、共通認識を図っています。業務の改善提案や意見については、法人本部で職員に対してアンケートを実施し、要望等を把握し、面談時にも要望、満足度を確認しています。
- 経験・能力や習熟度に応じた役割、期待水準は階層別に明確にしており、権限の委譲は分担表で明確にし、リーダーの設定と可能な限り権限委譲、責任の明確化を行っています。小さな事例も全職員で共有し、「チーム保育」を意識して保育を実践しています。

評価領域VI 経営管理**評価分類VI-1****経営における社会的責任**

評価

**評価の理由（コメント）**

- 守るべき法・規範・倫理等（就業規則など）は運営マニュアル、就業規則等に明文化し、職員に周知しています。経営、運営状況等の情報は法人のホームページで公開し、各園の運営状況も掲載し、横浜市、神奈川区へ報告しています。コンプライアンスに関しては、他施設での不正、不適切な事案（法人本部開催の園長会議、区の園長会議での事例等）を職員会議で報告し、職員は規範について再確認しています。エリア園長会議でも話題に上げ、職員共に周知して共有を図り、改善の指針として日々の保育に生かしています。
- 保育所における事務、経理、取引等に関するルールや職務分掌、組織図は「運営マニュアル」に明文化し、職員に周知しています。事務、経理、取引等に関する監査は法人本部の担当者が実施しています。
- ゴミ減量化、リサイクル・省エネ促進と緑化推進については、企業方針の中に「元気な大人になるための環境」を掲げて取り組んでいます。アイン高島台保育園は、「よこはま ECO 保育所」の指定を受け、プランターで植物を栽培して緑化の促進を図り、コピー用紙の裏紙の使用、牛乳パックの再利用、色画用紙の切れ端等を保育の素材として活用し、室内の電気をこまめに切り、エアコンの温度設定を図る等、省エネルギーに取り組み、環境に配慮した保育所の整備を積極的に実施しています。

評価分類VI-2**施設長のリーダーシップ・主任の役割等**

評価

**評価の理由（コメント）**

- 理念・基本方針は明文化し、理念・方針、保育目標を事務室に掲示し、職員の目に触れるようにしています。園長は、各職員が理念の理解がなければ保護者には説明できないと考え、昼礼、会議で都度、保育理念、保育年間目標、園の保育方針を説明し、保育に反映されるよう指導力を発揮しています。主任には年間最低2回面談を実施して理解度を確認し、主体的にかかわれるよう伝えています。また、指導計画作成や日々の保育から職員の理解度を把握し、リーダーシップを発揮して保育に取り組んでいます。
- 重要な意思決定については、園長は職員、保護者に情報提供と共に説明を行い、責任所在地や経過を提示して理解を促しています。重要事項の決定では、異なる部門の職員を介した「検討チーム」に法人本部保育事業部が加わり、組織全体で決定する体制を整えています。
- スーパーバイズのできる主任クラスの育成については、法人本部の人材育成プログラムに「主任育成プログラム」を設け、月1回、主任・リーダー研修を実施しています。毎月の主任会議では主任の育成に合わせたマネジメントや役割について研修を実施しています。主任は各職員の業務状態を把握してシフトを作成し、個々の精神面、体調面に配慮し、能力や経験に応じた的確な助言や指導に努め、園長の補佐としてまとめ役およびパイプ役となり、円滑な園運営に努めています。

評価分類VI-3**効率的な運営**

評価

**評価の理由（コメント）**

- 園の運営面における情報は、神奈川県保育園園長会、幼保小連絡会、子育て支援連絡会、区主催の研修会、法人本部の園長会議等に参加し、横浜市、厚労省の情報等も収集し、分析を行い、園運営に生かしています。運営面での重要な改善課題は法人本部から指示を受け、職員には職員会議を通して意思統一を図り、園全体で取り組んでいます。保育所の自己評価や改善課題についても全職員で話し合い、より良い園作りに向けて取り組んでいます。
- 中長期的な計画については、法人本部で3年間の事業の方向性を決定し、示しています。また、運営やサービスプロセスの新たな仕組みを常に検討し、次代の保育所運営に備え計画的な研修制度を基に後継者の育成に努めています。外部の機関や専門家等からのアドバイスについては、法人顧問弁護士、税理士、英語講師、外部講師、モンテッソーリの指導者、第三者委員等の意見を取り入れ、運営に有効に生かしています。

平成 30 年度 福祉サービス第三者評価 本人（園児）調査結果

アイン高島台保育園

調査日程	平成 30 年 11 月 1 日・2 日
保育観察	保育園に調査者 2 名で訪問し、全クラスの視察、観察を行いました。生活環境の保育観察を行い、午睡の様子と保育観察を継続する中、食事場面に同席して子どもと保育士とのかわり等の観察を行いました。各年齢については 1 日の保育の観察を通してそれぞれの特徴を捉えて記しています。

<登園の様子>

アイン高島台保育園は、高台にある大型マンションの 2 階部分にあり、勾配のある地形のため、2 階にエントランスがあります。朝の登園状況では、通園への道のりは非常に急勾配で電動自転車でもきついくらいですが、自転車で通園される方も中にはいましたが、大半の保護者は車を利用しているようです。園の玄関前は駐車禁止ですが、少し奥に車を停車できるスペースもあり、運転手付きでの登園や、路上駐車による登園の様子が見られました。高台であり、見晴らしは良く、天気の良い朝は清々しく、子どもたちは元気いっぱいに登園していました。

<お散歩>

訪問調査日は天気も良く、午前中はそれぞれのクラスでお散歩に行く予定にしていました。調査者 2 名は、0 歳児クラスと一緒に散歩に行くつもりで玄関を出ると、園庭側では 5 歳児と 3 歳児がお散歩に出かけるところでした。調査者それぞれが、0 歳児クラスと 5 歳児と 3 歳児グループのお散歩に同行させていただくことにしました。

【0 歳児】

0 歳児（あいクラス）5 名（在籍は 6 名で 1 名遅れて登園）でのお散歩に同行しました。保育士 2 名が付き添い、2 台のバギーに 3 名、2 名がそれぞれ乗って出発します。時期的に人見知りの子どもを事前にうかがい、配慮しながらお散歩に同行しました。アイン高島台保育園は丘のほぼ頂上にあるので、バギーでの散歩は坂を下ると帰りはバギーを押して上がらなくてはならないことを考慮し、丘の頂上から横にスライドする散歩コースを選択して向かいます。散歩先は散歩コース上の小さな公園です。公園には砂場があるだけの小さな広場で、周囲は雑木林やローンがありますが、0 歳児の遊び場には手ごろ広さで安全な公園です。また、他園が来ることはあまりなく、広場を独占して子どもたちはのびのびと遊ぶことができます。公園に到着すると、保育士 1 名はビニールシートを敷き、もう 1 名の保育士は公園内の危険なものを拾い、安全を確認してから子どもたちを一人ひとりバギーから降ろします。0 歳児クラスでは、既に 1 歳を過ぎ

2歳に近い子どももいるので、みんな公園内を歩き回り、砂場へ直行して遊びます。少しすると2歳児の子どもたちが加わりながらひとしきり遊び、園に帰る時間になりました。子どもたちはバギーに乗り、帰りの表情はまだ元気いっぱいな子ども、眠そうになっている子ども等、朝の登園時間によって様々に表情等が異なるようです。園に到着し、園庭側にバギーを付けると、園庭から保育室に入り、清潔にすると食事が待っています。アイン高島台保育園では、0歳児は育児担当制を採り、食事では1対1で担当保育士と一緒に食事をします。食事のテーブル1つ設け、保育士2名が付き、子ども一人ひとりを順番に食事の援助を丁寧に行い、1人が食事をしている時は他の5名は1名の保育士と遊んでいます。おむつ替えでは、担当の保育士がわらべ歌を歌いながら、子どもの目を見て微笑みながら優しくおむつ替えをしていました。食事をみんなが終わると午睡へと入ります。新鮮な空気が流れる高台で楽しくいっぱい遊び、おいしい食事を摂り、子どもたちは満足して眠りにつきます。

【1歳児】

1歳児クラス（ゆめクラス）は、0歳児のお散歩の前後に出かけ、0歳児と同様に丘の頂上から横にスライドする散歩コースを選択し、0歳児は道の分岐点を少し下りて公園に入りましたが、1歳児は分岐点から上の道を通って別の公園に向かいます。1歳児と0歳児が通りを交わして「バイバイ！」と声をかけると、お互いに「バイバイ〜！」と言って楽しそうにお散歩にでかけました。仲間意識が芽生えている笑顔の交流と共に、子どもたちの笑顔が今日一日の楽しいバロメーターです。

【2歳児】

公園で0歳児クラスが遊んでいると、遅れて2歳児（あゆみクラス）が同じ公園に到着しました。2歳児クラスは保育園から歩いて来ました。公園の危険物は先に到着した0歳児の保育士が確認済みであり、2歳児は到着するとすぐに遊び始めました。2歳児は活発で、周囲の雑木林やローンのところを走り回って遊ぶ子どもや、砂場に行って砂遊びをする子ども、落ちている何かを発見しながら遊ぶ等、様々な表現で遊びます。子ども一人ひとりに「自由保育」の成果が発揮されている場面が多くありました。子どもが木の実を拾って「どんぐり！」と言い、しかし、どんぐりではなくどうも花の種のようなようです。その子どもはまた、3つくっ付いた種と、1つの種を持ってきて「どんぐり！」と言って見せてくれます。どんぐりに似てることを見せてくれたのかもしれませんが。別の子どもが葉っぱを拾い集めて持ってきてくれました。紅葉が進んだ葉っぱで、表が赤銅色、裏がくすんだ緑色のものや、薄い赤色の葉っぱ等、「きれいね〜」と言うと、笑顔でまた探しに走って行きました。砂場で1人の子どもが、石の椅子の上に容器で砂山作りに一生涯懸命です。小さな砂山を作り、そこに細い葉の茎を立てるよう集中して立てようとがんばっています。すると茎が砂のてっぺんに立ちました！もう1人の子どもが茎を持って傍で見ている、その子どもも茎を挿したい様子です。スキを見てその子どもが砂山に茎を立てようと試み、すると茎が立ち、「やった〜」と心の声が聞こえてきそうな笑顔を見せました。先に立てていた茎が倒れてしまい、2人は協力して砂を足してまた砂山を作り、2人共とても満足そうでした。走り回っていた子どもたちはまだ楽しそうに走って

います。元気いっぱいです。一人ひとりが自然から自発的に遊び、きれいと思うものを集めたり、木の実に関心を持ったり、砂山作りでは譲り合い、協力をして創造する等、自由な発想で遊びを展開し、それぞれのペースで遊び、「好き」や「興味」の素地が培われています。

【4歳児】

園庭は、通り道からかなり高い位置にあり、ウッドデッキを備え、限られた敷地を活用して安全で安心して遊べる園庭を確保しています。4歳児（きぼうクラス）は園庭で遊び、それぞれの気持ちに沿って遊び、好きな場所でのんびり過ごしたり、遊具で遊ぶ子どもや、お友達と一緒に遊ぶ子どもたち等、保育士が見守る中、思い思いに遊んでいました。

【3歳児・5歳児】

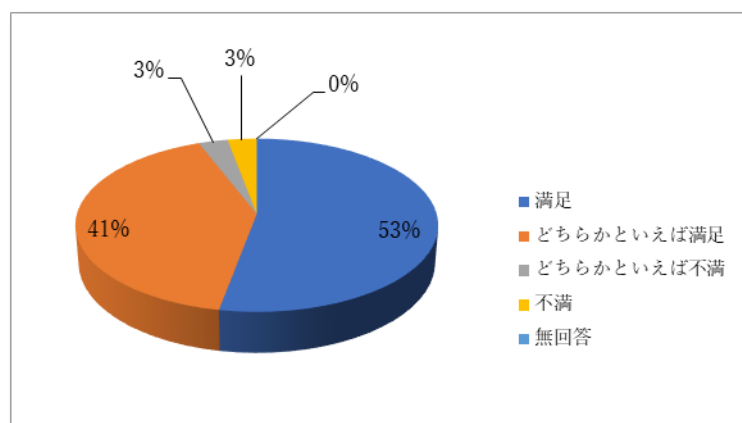
天気が良く、それぞれクラスでお散歩にでかけ、3歳児（のぞみクラス）と5歳児（みらいクラス）は合同で出かけます。3歳児12名、5歳児11名、保育士3名が引率に付き、遠足（11月8日に山下公園へ遠足）の予行演習ということで同行させていただきました。子どもたちは園庭の前に整列し、5歳児が3歳児の手をつなぎ、5歳児は道路側を歩きます。今日は遠足の予行演習として反町を経由して回り、園に戻る歩行訓練を兼ねた散歩です。出発時は交通量が少なく、歩きやすい順路を辿りながら進みます。時折車が来ると「後ろから車が来ます」と保育士が声を出し、全員止まって車の通過を待ちます。途中、赤い実をたくさん付けた木を見つけ、子どもが「あの赤いのが付いた木は何？」と聞き、保育士が「ビラカンサよ」と答えます。季節的に街中でも見かける木で白い壁に映え、野鳥も集まる木ですが、子どもの目に鮮やかに映ったのでしょうか。道端のススキも見つけ、秋は自然の宝庫です。家の庭先には柿が生っているのを3歳児が見つke、「柿だけで富有柿じゃないよ」、「富有柿はおへそが引っ込んでいるんだよ！」と言い、物知りにびっくりしました。進んでいくと「東横フラワー緑道」にさしかかり、緑道の両側はきれいに管理された花壇が続き、整備されて歩きやすく、足元には東横線が出入りしています。フラワー緑道を通り抜けると東横線反町駅に出ます。子どもたちは「東横フラワー緑道」から商店街へ向かい、商店街を歩きます。商店街の「お花屋さん」、「八百屋さん」のお店の方に会うと子どもたちは元気に「こんにちは！」と挨拶を交わし、社会性も身に付いています。そして、折り返し地点から全長2km程度の遠足の予行演習を終えて園に戻りました。子どもたちは列を乱さずしっかり歩き、途中の風景に親しみ、発見をしながら楽しみ、良い予行演習でした。本番の遠足もきっと楽しみなことでしょう。

【アイン高島台保育園 利用者アンケートの特徴】

実施年度 / 評価項目手法	30年度 / 横浜市版
アンケート調査対象	利用者家族 配付世帯数（世帯数 45）
有効回答数	34 世帯
世帯総数に対する回答者割合（%）	76%

0 歳児 5 世帯	1 歳児 5 世帯	2 歳児 7 世帯	3 歳児 6 世帯	4 歳児 5 世帯	5 歳児 6 世帯
--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------

* 回答があった利用者満足度の内訳（%）



●利用者アンケートの特徴として、日常の保育内容の「生活」についての項目が総体的に『満足』が高く、『満足』が高い項目では、「給食の献立内容」についてであり、『満足』は 74%を得ています。「園の玩具や教材」、「お子さんが給食を楽しんでいるか」についての 2 項目は、『満足』は 71%を示しています。『満足』と『どちらかといえば満足』を合わせて（以下、ほぼ満足という）見ると、中でも「給食の献立内容」については、「ほぼ満足」は 98%を示しています。また、「園の目標や方針についての説明」、「保育園での 1 日の過ごし方についての説明」、「お子さんが落ちついて過ごせる雰囲気になっているか」、「園の行事の開催日や時間帯への配慮」、「開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応」についての 5 項目は、「ほぼ満足」は 97%となっています。また、「園の玩具や教材」についても「ほぼ満足」は 95%を示しています。その他の項目についても、「ほぼ満足」に関しては高い評価が得られています。

●アンケートの自由記述からは、各年齢の保護者から「保育状況、教育スタンス共にとても満足している」、「帰宅時には、職員が保護者と話がしやすくできるように心がけたり、努力する姿勢が見られて安心感がある」、「どの先生（保育士）も話しやすく、壁なく接してくれる」、「モンテッソーリ教育の理念に沿った

方針もあってか、落ち着いて過ごせるような環境作りに配慮されている」、「他クラスとの関わりが多くて良い」、「先生（保育士）たちは各個人に対して柔軟に対応してくれる」、「延長保育や夕食は柔軟に対応してもらえるので大変助かっている」等、方針に共感すると共に、多くの喜びの意見が挙がっています。

●『不満』および、『満足』が比較的低い項目では、「子どもが戸外遊びを十分しているか」についてが『不満』15%として中でも挙げられます。『満足』の低い項目では、「年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているか」についてが、挙げられます。

●アンケートの意見からは、「オムツはずしに関する情報が少ない」、「周りに自然が多いため、害虫対策をしてもらえると助かる」、「天気の良い日でも、1日中屋内遊びをしている時もある」、「1日の様子の伝達や基本的な挨拶が物足りない」、「外遊びが少ないので不安」等の意見が挙がっています。それぞれ、時々に関して都度、園から説明、周知されていると思いますが、保護者からの意見、要望等について受け止め、利用者の理解や協力につなげられるよう、日々の振り返りと見直しを図る機会を設け、継続してより良い園作りへの取り組みを期待いたしております。

●保育園の基本理念や基本方針については、よく知っているが21%、まあ知っている65%、どちらともいえない9%、あまり知らない6%という結果になっています。しかし、それらの賛同については、賛同できる59%、まあ賛同できる21%、あまり賛同できない6%、無回答15%にて、80%がほぼ賛同を示しています。保育の根幹なる保育目標、保育方針は機会あるごとに周知を図っていますが、より一層の周知・理解を促す工夫が期待されます。

●総合的に、『満足』は53%の支持を頂き、『どちらかといえば満足』は41%、『どちらかといえば不満』は3%、『不満』は3%、『無回答』0%にて、サービスの提供について、94%が「ほぼ満足」していると捉えることができます。

利用者調査項目（アンケート）

アイン高島台保育園

【保育園の基本理念や基本方針について】

※上段%、下段人数で示しています

問 1

利用者調査項目		よく知って いる	まあ知っ ている	どちらとも いえない	あまり 知らない	まったく 知らない	無回答
1	あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか。	21%	65%	9%	6%	0%	0%
		7人	22人	3人	2人	0人	0人
		賛同でき る	まあ賛同 できる	どちらとも いえない	あまり賛同 できない	賛同でき ない	無回答
2	あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか。	59%	21%	0%	6%	0%	15%
		20人	7人	0人	2人	0人	5人

【保育園のサービス内容について】

問 2 入園する時の状況について

		満足	どちらか と い え ば 満 足	どちらか と い え ば 不 満	不 満	そ の 他	無 回 答
3	見学の受け入れについては	68%	15%	6%	0%	12%	0%
		23人	5人	2人	0人	4人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・行ってないです。 ・土日、園児のいない日に少し見せてくれたただけでした。 ・見学していません。 ・初子なので思いつきませんでした。 ・新設時だったのでやっていなかったと思う。 ・新しく開園する時だったので、松本町を見学させてもらいとても感じが良かった。 					
4	入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	50%	35%	9%	0%	6%	0%
		17人	12人	3人	0人	2人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に自分が行かなかった。 ・説明を詳しくしてくれた。 ・新設なので特になし。 					

5	園の目標や方針についての説明には	44%	53%	0%	0%	3%	0%
		15人	18人	0人	0人	1人	0人
《その他意見》							
6	入園時の面接などで、お子さんの様子や育成歴などを聞く対応については	62%	29%	3%	0%	6%	0%
		21人	10人	1人	0人	2人	0人
《その他意見》		・聞かれておりません。					
7	保育園での1日の過ごし方についての説明には	44%	50%	3%	0%	3%	0%
		15人	17人	1人	0人	1人	0人
《その他意見》							
8	費用やきまりに関する説明については（入園後に食い違いがなかったかを含めて）	53%	29%	6%	3%	9%	0%
		18人	10人	2人	1人	3人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・とにかく子どもの様子を見せてくれない・部屋に入れない、不満しかない。 ・未だに、延長保育の料金がどのように計算されているか知らない。（今更聞けないのもありますが） ・初子なのでわかりません。 					

問3 保育園に関する年間の計画について

		満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答
9	年間の保育や行事についての説明は	50%	38%	9%	3%	0%	0%
		17人	13人	3人	1人	0人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・良くしていただいています。 ・親を喜ばせるのが多いがそんなのは、いらないので子を家庭的な雰囲気の中、毎日を充実させてほしい。 ・詳しい時間や内容がギリギリで発表されるので、仕事との兼ね合いが難しい。 					
10	年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	32%	47%	6%	6%	9%	0%
		11人	16人	2人	2人	3人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・努力していただいています。 ・行事が長すぎる。 ・ヒアリングされることが少ないので何とも…。 ・要望を出していいないので。 					

問 4 日常の保育内容について

「遊び」について

		満足	どちらかと いえば満足	どちらかと いえば不満	不満	その他	無回答
11	クラスの活動や遊びについては (お子様が満足しているかどうか)	59%	24%	12%	6%	0%	0%
		20人	8人	4人	2人	0人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・外遊びが少ない。 ・もっと、モンテッソーリ教育を取り入れているかと思った。 					
12	子どもが戸外遊びを十分しているかについては	50%	21%	15%	15%	0%	0%
		17人	7人	5人	5人	0人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・虫に刺されやすい。 ・虫の多い場所は避けてほしい。蚊に何か所も刺されて帰って来ると心配になる。 ・酷暑になる前に、もう少し外遊びをしてほしかった。 					
13	園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に 使えるように置いてある、年齢にふさわしいかなど)	71%	24%	3%	0%	3%	0%
		24人	8人	1人	0人	1人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・中に入らないので。 					
14	自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動に ついては	44%	35%	15%	6%	0%	0%
		15人	12人	5人	2人	0人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどない。 					
15	遊びを通じた友だちや保育者との関わりが十分もて ているかについては	53%	29%	12%	6%	0%	0%
		18人	10人	4人	2人	0人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・部屋に親が入れない、見れないので不満がある。なぜ部屋の中に入れないのか？ 					
16	遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みにつ いては	53%	35%	9%	3%	0%	0%
		18人	12人	3人	1人	0人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・給食も工夫されています。 					

「生活」について

		満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答
17	給食の献立内容については	74%	24%	3%	0%	0%	0%
		25人	8人	1人	0人	0人	0人
	《その他意見》						
18	お子さんが給食を楽しんでいるかについては	71%	21%	3%	0%	3%	3%
		24人	7人	1人	0人	1人	1人
	《その他意見》	<ul style="list-style-type: none"> ・食べない時もあるようなので。 ・おやつも残すなどと言われて泣いている子を見たことがあります。 ・わかりません。 ・一番おいしそうです。 					
19	基本的な生活習慣（衣服の着脱、手洗いなど）の自立に向けての取り組みについては	68%	24%	6%	0%	3%	0%
		23人	8人	2人	0人	1人	0人
	《その他意見》	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールが多い。 ・子どもにさせるのは構わないが、シャツの前後や肌着をしまう等、教えてほしい。 					
20	昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	65%	24%	6%	6%	0%	0%
		22人	8人	2人	2人	0人	0人
	《その他意見》	<ul style="list-style-type: none"> ・お昼寝が長いような… 					
21	おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	35%	21%	24%	6%	15%	0%
		12人	7人	8人	2人	5人	0人
	《その他意見》	<ul style="list-style-type: none"> ・わからない。 ・何もしてくれないので困る。 ・園側はのんびりと構えてくれていたが、親は焦ってしまい中々協力して進められたとは思わない。 ・既に外れていたため。(3) 					
22	お子さんの体調への気配りについては	56%	32%	12%	0%	0%	0%
		19人	11人	4人	0人	0人	0人
	《その他意見》	<ul style="list-style-type: none"> ・体調の悪い日は、散歩に連れて行かないでほしい。 					

23	保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	53%	24%	21%	0%	0%	3%
		18人	8人	7人	0人	0人	1人
《その他意見》		・本人が疲れたと言う時は、体調が悪いので無理矢理歩かせるのも避けてほしい。 ・あまり説明がない。					

問5 保育園の快適さや安全対策については

		満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
24	施設設備については	47%	44%	9%	0%	0%	0%
		16人	16人	3人	0人	0人	0人
《その他意見》		・蚊が多いです。 ・園庭が狭い。					
25	お子さんが落ちついて過ごせる雰囲気になっているかについては	62%	35%	3%	0%	0%	0%
		21人	12人	1人	0人	0人	0人
《その他意見》							
26	外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	53%	41%	6%	0%	0%	0%
		18人	14人	2人	0人	0人	0人
《その他意見》		・暗証番号さえわかれば、入っても気付かないと思う。(入口に職員がいなければ、見えないので)					
27	感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	53%	38%	9%	0%	0%	0%
		18人	13人	3人	0人	0人	0人
《その他意見》							

問6 園と保護者との連携・交流について

		満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
28	保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	41%	47%	6%	0%	6%	0%
		14人	16人	2人	0人	2人	0人
《その他意見》		・もう少し子どもたちの様子を詳しく知りたいと思っています。(まだ、行っていない為) ・大して話す内容がない場合は、前もって教えてほしい。					

29	園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	50%	44%	6%	0%	0%	0%
		17人	15人	2人	0人	0人	0人
《その他意見》							
30	園の行事の開催日や時間帯への配慮については	53%	44%	0%	3%	0%	0%
		18人	15人	0人	1人	0人	0人
《その他意見》		・長い。					
31	送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	44%	35%	12%	0%	0%	0%
		18人	12人	4人	0人	0人	0人
《その他意見》		・車を止められない。(2台のみ?) ・先生に差がある。					
32	お子さんの関する重要な情報の連絡体制については	53%	35%	12%	0%	0%	0%
		18人	12人	4人	0人	0人	0人
《その他意見》		・休んだ時に配られた手紙類等、こちらで確認しないと貰えない。					
33	保護者からの相談事への対応には	59%	32%	9%	0%	0%	0%
		20人	11人	3人	0人	0人	0人
《その他意見》		・返事が遅い。(内容が必須でなかったりすると保留になる)					
34	開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	65%	32%	0%	0%	3%	0%
		22人	11人	0人	0人	1人	0人
《その他意見》		・該当しない。					

問7 職員の対応について

		満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答
35	あなたのお子さんは大切にされているかについては	56%	35%	9%	0%	0%	0%
		19人	12人	3人	0人	0人	0人
《その他意見》		・人により差がある。					

36	あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	62%	26%	9%	0%	3%	0%
		21人	9人	3人	0人	1人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・楽しそうに登園していない。 ・それなりに楽しんでいるようだが、先生に対してあまり好意を持っている感じがしない。 					
37	アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	50%	24%	0%	0%	24%	3%
		17人	8人	0人	0人	8人	1人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・わからない。(2) ・役所に提出を要する書類に関して十分な説明がなく、医師に支払う診断書料金、医師に赴く時間がかさむ時があり、クリアにしてほしい。 ・該当しない為、わからない。(4) 					
38	話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	68%	24%	9%	0%	0%	0%
		23人	8人	3人	0人	0人	0人
《その他意見》							
39	意見や要望への対応については	53%	38%	3%	3%	3%	0%
		18人	13人	1人	1人	1人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・職員によって対応がバラバラである。 ・ルールありきであまり対応してもらえない。 					

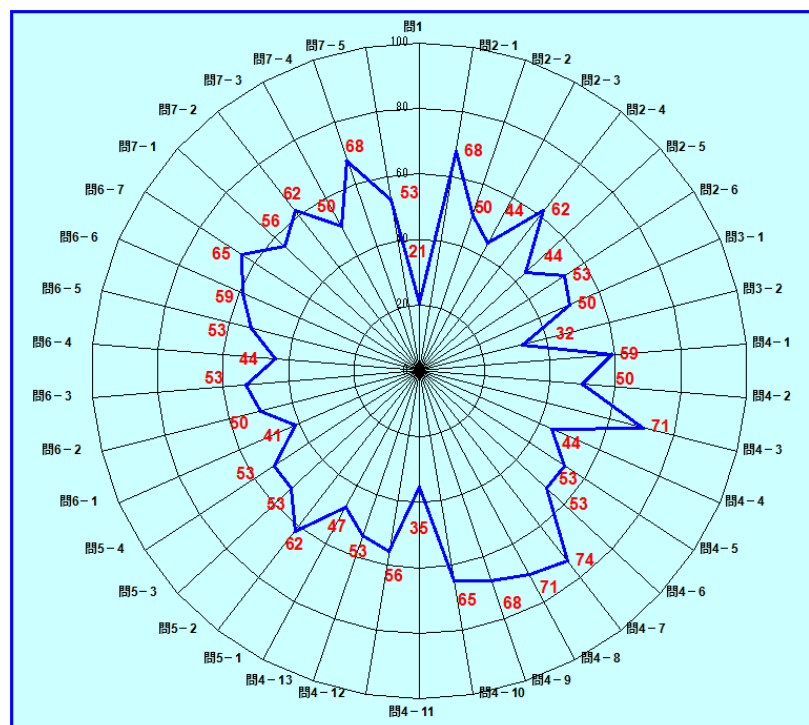
問8 保育園の総合評価

		満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
40	総合満足度は	53%	41%	3%	3%	0%
		18人	14人	1人	1人	0人
《その他意見》						

保護者アンケート調査結果（設問別「満足度」総合）

（注）レーダー数値は設問別「満足度」回答率（小数点以下は四捨五入）

調査対象園舎： 中央出版株式会社 アイン高島台保育園	横浜市神奈川区高島台 27 番
回答世帯数：45 世帯中 34 世帯 <0 歳児(5 世帯)、1 歳児(5 世帯)、2 歳児(7 世帯)、3 歳児(6 世帯)、4 歳児(5 世帯)、5 歳児(6 世帯)>	
定 員： 60 名	調査期間： 2018/08/21 ~ 2018/11/01



事業者コメント

施設名： アイン高島台保育園

施設長名： 大津 裕子

<評価に取り組んだ感想>

開園して初めての第三者評価ということで、改めて5年間の園の取り組みや方針等を含め園全体で考える機会になりました。

子どもたちに対して、一人ひとりと丁寧に関わる保育を大切に日々保育をしてまいりましたが、今回の自己評価を職員全員で話し合いをすることで、職員同士の小さなずれやマニュアルの周知などを含め共有をし、職員全体で同じ方向を向くきっかけになったのではないかと考えております。

話し合いの中で出てきた園としての課題や保育に対する評価項目について、一つひとつ職員と共有し共に考えながら、よい良い保育の質の向上に努めてまいります。

今回の受審にあたりお忙しい中アンケートにご協力いただきました保護者の皆さま、評価機関の皆さまには感謝申し上げます

<評価後取り組んだ事として>

1. 評価の中で、浮かび上がってきた課題について小さなことから職員間で話し合い、改善していききました。また、改めて各マニュアルの周知と再確認をし、職員一人ひとりが同じ対応ができるよう研修などを行いながら改善しているところです。
2. 保護者の皆さまの意見・要望につきましても職員と改善策を考え、園の思いやお知らせについてはおたよりや貼紙でお伝えするなどより分かりやすく、理解していただけるよう工夫しています。

今後も、職員一同子ども達にとっての「第2のおうち」として、安心して過ごせるあたたかな園づくりに努めてまいります。